



©産業経済新聞東京本社2014
〒100 0100 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL (03) 3231-7111(大代表)
〈昭和44年2月28日第3種郵便物認可〉
2014年(平成26年)

3月7日(金)
発行・6日

タ刊フジ 2014年

名医はこの人

ブラックジャックを探せ



て良性疾患なので、症状をなくし、患者が楽になるにはどうするか、尿道の圧迫を緩めて排尿の

ればいいのかを追求すること
が何より求められます」
そう語り、可能な限り患者の
話を聞いて、その患者にとって
最良と思われる治療方針を立て
ていく姿勢を堅持する。

大阪駅からJR線で一駅。塚本駅前のアーケードを抜けたところにある「しもがき泌尿器科クリニック」は、6年前にオープンした泌尿器科専門の診療所。理事長兼院長の下垣博義(ごん)氏は、長く高機能病院で内視鏡などを使った低侵襲手術を行ってきた泌尿器科医だ。

「このクリニックの患者さん

しもがき泌尿器科クリニック 下垣博義さん(51)
理事長兼院長



しもがき・ひろよし 1962年、大阪府池田市生まれ。88年、神戸大学医学部卒業。同大附属病院、原泌尿器科病院、神鋼病院、兵庫県立尼崎病院、関西労災病院などに勤務後、2009年、「しもがき泌尿器科クリニック」を開設し理事長兼院長に就任。日本泌尿器科学会専門医、日本内視鏡外科学会認定医、日本性感染症学会認定医。趣味はダイエット(食事コントロール)と、ジムで汗を流すこと。

やさしい治療でスッキリ排尿

勢いを改善する薬を使います。その上で、症状の落ち着き方を見ながら、患者個別の状況に応じた対応を考えていく。ある意味「オーダーメイドの医療」ということになりました」
前立腺肥大症で訪れる人は80-70歳代が中心。夜間頻尿など日常生活で感じる支障が大きくなってから来院するケースが多いが、前立腺肥大症の背景には糖尿病や高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病が関連していることも多く、甘く見ると取り返しのつかないことにもなりかねない。
「開業してからは内科系を中心に泌尿器科以外の診療科の勉強会などにも出るようになりました」と向学心旺盛な下垣医師。
「街の頼れる泌尿器科医」として、活躍の場が広がっている。

(長田昭二)

可能な限り話を聞く
オーダーメイド診療
前立腺肥大症を楽に